

(社)日本鑄造工学会 「生型砂管理技術の再構築」研究部会  
第 09 回研究部会議事録(案)

日時 : 2014 年 2 月 25 日(月) 13:00~17:00

場所 : 安保ホール 601 会議室 (名古屋駅 徒歩5分)

出席者: 橋本(部会長, 新東工業), 山村(金森メタル), 村川(三重県工研), 佐藤(アイメタルテクノロジー), 藤井(太洋マシナリー), 田中(コヤマ), 倉上(ヤマトインテック), 松本(クボタ), 井上(虹技), 水谷(瓢屋), 上林(ツチヨシ), 川島(マツバラ), 樋口, 水野(中央可鍛工業), 森川(森川鉄工), 土本(クニミネ), 西野(コマツキャストックス), 寺島(豊洋ベントナイト), 五家(FTC), 小倉(新東工業), 栗熊(栗熊技術事務所), 前田(幹事, 海保大)

以上 22 名(敬称略, 順不同)

議事

1. 前回議事録 異議なく承認

2. 日本鑄造工学会第 164 回全国講演大会技術講習会のご案内(案)「最新の砂型技術」

平成 26 年 5 月 30 日(第 164 回全国講演大会期間中)に開催予定の技術講習会では、「砂」「鑄型」を統一テーマとして開催される予定である。その 1 つのセッション「生型砂の管理について」で、佐藤委員(アイメタルテクノロジー)、上林委員(ツチヨシ)、松本委員(クボタ)、田中委員(コヤマ)の 4 件が発表する予定であることが紹介された。

3. 生型造型技術の動向と型技術(08-04)

新東工業(株) 橋本部会長

前回研究部会の積み残し分である。グローバル市場における鑄物生産動向、日本の鑄物生産の特徴、精度向上と鑄造設備技術が述べられた。中国の生産量が圧倒的に多く、次いでアメリカ、ドイツ、インド、日本で Top5 を形成すること、その中からドイツと日本の比較がなされ、両国とも自動車依存度が高いけれども、工場規模と生産量では違いがあることなどが紹介された。

4. インド、中国、韓国の鑄物事情(09-01)

栗熊技術事務所 栗熊勉氏

インド、中国、韓国における鑄物工場の初期立ち上げを指導した立場からみた各国の鑄物事情が紹介された。例えば、インドは工科大学卒のエリートが多いこと、北部(デリー付近)と南部(タミール付近)で仲が悪いこと、中国では最高級の設備を導入するものの操作する人、メンテする人が不足していること、韓国では日本式品質管理、TPM などの情報を持っているものの活用できていないことなどが紹介された。

5. 低臭気 RCS の現場展開による臭気低減と小物鑄鉄鑄物のガス欠陥対策(09-02)

(株)マツバラ 川島委員

シェル砂のレジンを燃えたときの発生する臭気を抑制するために、新しく導入した低臭気のレジンコーテッドサンド RCS でのテスト結果が紹介された。新しい低臭気 RCS はガス発生量、圧力ともに低下して臭気低減の目標を達成したことが報告された。加えて、ガス抑制効果に付随してピンホール、ガス欠陥も低減する良好な結果が得られたと紹介された。

6. その他

次回研究部会は、2014 年 6 月中旬に開催予定である。なお、森川委員(森川鉄工)より北海道での研究部会開催が打診され前向きに検討して行くことになった。

以上